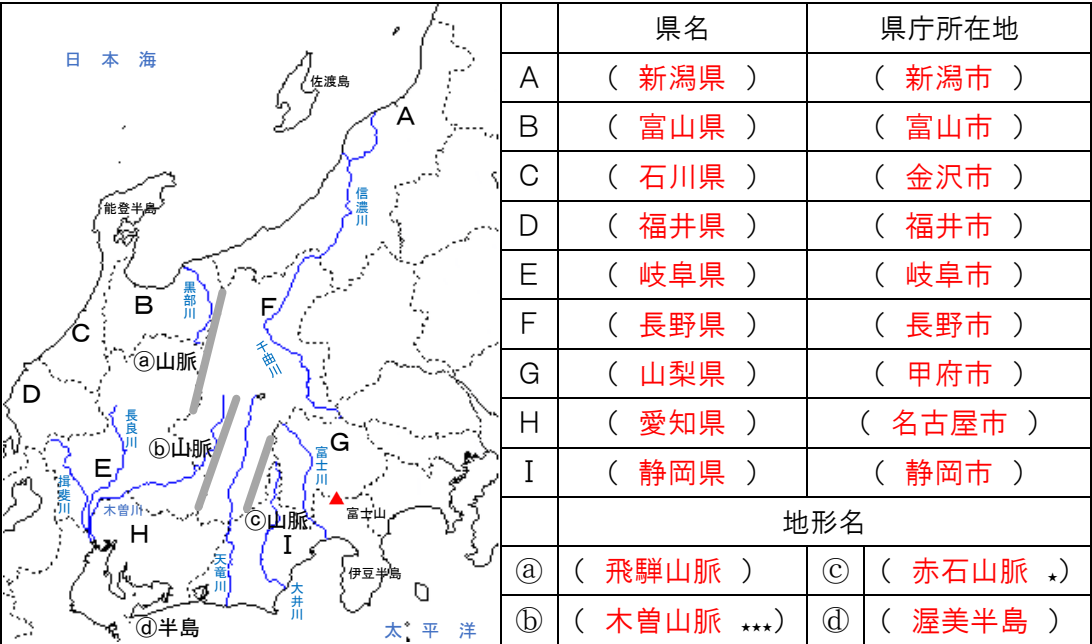


1

中部地方の自然環境

○日本アルプスを抱く中部地方



中部地方：本州の中央部に位置し、内陸の高地や河川の下流域の平野など起伏に富む
中央：(**日本アルプス** ***)と呼ばれる^{ひだ}飛騨山脈・^{きそ}木曽山脈・^{あかいし}赤石山脈、富士山などの火山も点在
→太平洋側には富士川や天竜川、木曽川など、日本海側には信濃川や黒部川などが注ぐ

中央高地：日本アルプスから流れる河川の上流域・中流域に位置し、平地が少ない
→河川に沿うように人口や産業が集中、盆地には地域の中心都市がある

太平洋側：^{のうび}濃尾平野が広がり、昔は河川の氾濫に悩まされた地域
→治水が進んだことで住宅地が増え、名古屋大都市圏となる

日本海側：^{えちご}越後平野や富士平野など広がる

<日本の面積・人口に占める中部地方の割合(2019)>

面積 38万km ²	九州 11.8%	中国・四国 13.4	近畿 8.8	中部 17.7	関東 8.6	東北 17.7	北海道 22.0
人口 1.2億人	九州 11.4%	中国・四国 8.8	近畿 17.7	中部 16.9	関東 34.1		東北 6.9

○三つの地域で異なる気候

中部地方の気候：太平洋側の（ 東海 ）, 内陸の（ 中央高地 ）, 日本海側の（ 北陸 ）で異なる

東海：夏から秋にかけて降水量が多く、冬は温暖

→^{するが}駿河湾沿いの丘陵でみかんの栽培が盛ん

中央高地：1年を通して降水量が少なく、冬の寒さが厳しい

→^{かるいざわ}軽井沢町（長野県）などの標高の高い地域は、都市部の避暑地になる

北陸：冬の北西からの季節風によって雪が多く、山あいの地域は豪雪地帯となる

→大雪になると交通がマヒし、日常生活に影響を及ぼす

＜中部地方の主な都市の雨温図＞

